

新しい年度を迎えました。この「ジオパーク通信」では、洞爺湖有珠山ジオパーク(伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町)の見どころ・楽しみどころ、最新のジオパーク情報をお知らせしていきます。



ジオパークってどこ？

ジオパークとは、人工的に作られたテーマパークとは違い、もともとの大地の特徴を保全し、観光や教育に活用している地域一帯を指します。

洞爺湖有珠山ジオパークのエリアは、伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町の全域。約 48,000人が暮らし、年間 733万人もの観光客が訪れるこの地域は、ユネスコ世界ジオパークに認定されています。



ジオパークって何するところ？

「ジオ」は英語で「地球」を示す言葉です。ジオパークは、地球の歴史や活動を知り、楽しめる地域のこと。そのための散策路や各種の展示施設、ガイドブック、案内役がそろっています。ここでしか見ることのできない「大地の物語」を、一緒に探してみませんか？

例えばここも見どころ！



300万年前の火山活動の証
小幌洞窟(豊浦町)



カルデラ壁が崩れ島になった
浮見堂(洞爺湖町)



1822年の噴火災害を伝える
有珠善光寺(伊達市)



麦畑から誕生した昭和
新山(壮瞥町)

お知らせ

4月から洞爺湖有珠山ジオパークにジオパーク専門員が配置されましたので紹介します。



名 前 西 勇樹(にし ゆうき)
出身地 和歌山県新宮市(出身大学 山形大学)
専 門 火山岩石学

【あいさつ】

皆さん、初めまして！私はこれまで山形大学で「いつも明るく元気に」をモットーに、東北地方の活火山である蔵王火山の噴火の歴史と、マグマ溜まりに関する研究を行ってきました。

この経験を生かして、洞爺湖有珠山ジオパークのさらなる発展に貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。